

出かい

母校である岩手中・高等学校が創立七十周年を迎えた由、心からお慶び申し上げますと共

にお祝い申し上げます。
人間でいえば七〇歳は古稀、「人生七〇古

細屋 直躬
(新5回生)

来稀」、そんな時代から今日では「人生八〇年」の時代を迎え、世は高齢化社会に向って進展している。

一口に七〇年といえばそれまでであるが、大正、昭和そして平成とその時代の時を刻み一步一步積み上げてきた学校の歴史の重みを想うとき、心から敬意と感謝を禁じ得ないの

である。

私は新五期生、昭和二五年四月から三年間在校したが、「質実剛健」を旨とする石桜精神の基に教えられ、学びそして育まれ「優秀な成績」をもって卒業……と言いたるところであるが、成績は常に「赤点」すれすれ、真に不肖なる生徒であった。

よくぞ卒業させていただいたものと感謝している。

当時の先生方は、佐々木哲郎校長をはじめ、山中順三先生、戸嶋正夫先生、遠藤貫中先生、鈴木健郎先生、足沢至先生等であり、どの先生方をみても「質実剛健」、石桜精神の塊りのように見えたものだった。

しかし、その教育指導はそれぞれ個性的な人柄、そして人間味豊かな温かさを感じさせるものであった。

新五期生は、ニクラス一〇〇人足らずだったがこれがまた文武両道、いま風にいえば学業もスポーツも県下で相当なレベルにあったと記憶している。

また反面、遊びの方もそれ相応に青春を謳歌し、三年間の学舎を昭和二八年三月、新たな道を求めて単立ち、爾来四〇数年同期の大半は定年を迎えている今日である。

私は卒業後、岩手県庁に入庁して四〇年余りを過ごし、平成六年三月退職したが、その

間、本当に多くの事を学び、そして教えられ育てられたのである。

その中の一つ、「出会い」はいかに大切であるかということである。

昨今、きたない、危険、暗い等3Kあるいは10Kともいわれる仕事若し人達の間で嫌われているが、Kのつく仕事ほど、人々の幸せ、生活を営むうえでの安全、そして快適さの土台を支えているものが多いことを知ってほしい。

物事は、明るく楽しく、前向きに考える事が大切であり、これからは「アイ」を大切にしたいものである。

出アイ、ふれアイ、語りアイ、他にも励ましアイ、助けアイ等、様々なアイがある。

出会いには人、物、事柄などがあるが、その出会いを大切にふれ合い、そして本音で語り合いをすることにより、相手の立場を理解するとともに痛みも分かる心が生まれ、更に相互に信頼感が生れる。

そのためには、仕事、読書、貯金という趣味をもつことである。

仕事、読書、貯金といえ、いまどき馬鹿じゃないのと言われそうだが、また昔は面白味も可笑しくもない融通のきかない、真面目な人の代名詞につかわれていた時代もあったが、ものは考えようである。

一、仕事は数多くの出会いの場をもっている。今日、月謝を支払いカルチャーセンターに通い、ものを覚える時代に、報酬等を得ながら多くの人々との出会い、そして知識、経験等を会得できる。

こんなすばらしいことが他にあるだろうか？

一、読書を情報化と解すれば、書類、会議、新聞、テレビ、雑誌等さらにはスポーツ等サークル活動も全て情報源である。

一、貯金は、多くの出会いから知り得た人々、知識、経験等は全てその人の財産であり、計り知れない利潤を生み出す、打ち出の小槌である。

真面目で一生涯懸命であることは誰でも同じ。これからは個性と前述の趣味を存分に生かし、何よりも実行することが重要である。

まもなく二十一世紀、学校も私達もこれから出会うであろう多くのことに希望を託し、新世紀を迎えたいものである。

終りに、岩手中学校・岩手高等学校の益々のご発展を祈念いたします。

(岩手県住宅供給公社理事長)